

中国・南昌市への青年訪問団派遣事業 事後報告書

◆学校名と名前： 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 雉尾 秋人

江西省及び南昌市に滞在中の様子（写真を含む）や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。（1,000字程度）

今回の高松市青少年訪問団派遣事業は8月21日から8月27日迄の日程でした。初日は南昌市まで移動するのに半日以上かかり、飛行機を2回利用するほど中国は面積が大きい国だと改めて実感しました。長距離移動に加え、中国も日本と変わらない体感温度で蒸し暑く、ホテルへチェックインする頃には夜も更けていて疲労困憊でした。食は日本と比べて香辛料が豊富に使われており、好き嫌いが分かれそうな味付けでした。普及している米はインディカ米がほとんどなので、炒飯はバラバラで絶品でした。移動中も景色がとても綺麗で、超高層ビルが多く立ち並んでいる姿に圧倒されました。

友好都市青年エリート対話江西のイベントでは、友好都市・中国に向けて、各国青年団の代表者が母国についての紹介等をスピーチしました。対話イベントを経てそれぞれの国と中国の関係性を認識することができました。その後は南昌・高松中日友好会へ訪問を行いました。南昌と高松は30年もの長い交流の歴史があるとのことで驚きました。今回の私たち高松市青年団9名の派遣も、友好関係があってからこそ中国留学ということを改めて再認識できた訪問でした。夕方からは岡山・岐阜青年団と合同で中日青年友好交流セレモニーがありました。中国の伝統的な歌やダンスを拝見し、その中でも武道のモンチャクでの演技は非常に迫力があり心に残っています。中国の学生の方とも英語や翻訳機を使いながら話すことができ、中国語の語学勉強の励みになりました。

また、南昌は特にVRが盛んな都市であり、100軒以上もの企業を抱えているとのことで、実際にVR体験をしました。中国の街並みや風景、シューティングゲーム等を体感し、美しいグラフィックと高い技術に心をくすぐられました。

中国陶磁器博物館の視察をし、見応えのある様々な陶磁器の展示を鑑賞しました。午後からは実際に陶磁器作り、切り紙、中国茶の作法を体験しました。陶磁器作りでは土台を回しながら形成しないといけない作業が想像以上に難しかったです。陶磁器博物館に加えて実際に体験もでき、伝統的な中国文化の学習に繋がりました。

そんな色濃く、短い6日間の感想は、参加者全員が「楽しかった」と口を揃えて言えるでしょう。これまで以上に無い中国の文化を実際に自分の目で見て、手で触れて、心で感じて、これまでのイメージを一新するような経験ができたことには間違いありません。最後に企画を主催して下さった関係者の皆様、本当にありがとうございました。謝謝！

